

意匠・構造設計を手がける松本設計（東京都立市）の松本照夫社長（右）は、2月18日、木材会館（東京都江東区）で

松本設計社長、工務店の中大規模木造建築推進

木材利用事例発表会で

開催された「第7回『新たな木材利用』事例発表会（木材利用の意義と効果の見える化）」（一般社団法人全国木材組合連合会・木材利用推進中央協議会主催）で、「市場流通材を使って地場工務店が建てる中・大規模木造建築」をテーマに講演し、木造非住宅建築物の施工費を抑えるプランニングの重要なポイントについて①建物形状をシンプルに整える②木造のモジュールができる限り崩さない平面プラン③上下階の齢者向け住宅などに採用



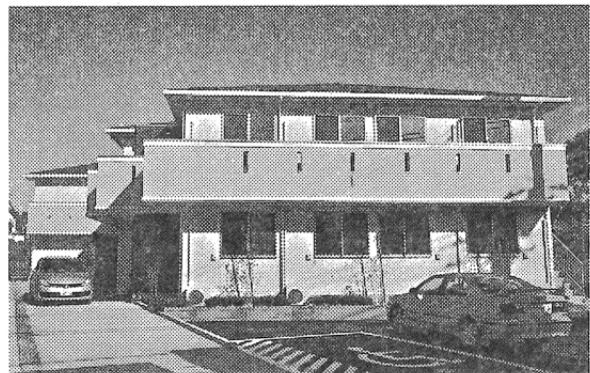
トを抑えることとの第1は、市場の流通材を採用することであると強調した。「木造のモジュールを崩さない」とは、福祉施設は居室が連続するので、1階から3階まで間取りを同様にすることを原則にするということ。

「食堂や集会室などを上階でできるだけ同じ位置に配置し、耐荷重性の異なる部材に変えないようにするなど、地味な構造計画をプランに反映させる」（松本社長）。同社はサービス付き高齢者向け住宅などに採用

する標準的な居室平面プランを18平方㍍や、ひとり暮らしで大きい25平方㍍のモジュールとして数種類用意しており、敷地や収容人数に応じて、そのモジュールの中から最適なプランを採用している。

事例では、4年ほど前に建築した東京都練馬区のグループホーム兼小規模多機能施設（在来軸組工法、地上2階、準耐火建築物）や東京都練馬区の認定こども園（同）などが紹介された。親子で営む地元工務店が施工し

たという。特殊部材を使わず、プレカットの発注のみで組み上げた。一方で「地場工務店で困るのことはエレベーター設備とスプリンクラー設備の処理」（同）という問題はあるものの、これは設計事務所との十分な連携を取ることによってクリアできる部分だという。



地元工務店が施工したグループホーム

たという。特殊部材を使わず、プレカットの発注のみで組み上げた。一方で「地場工務店で困るのことはエレベーター設備とスプリンクラー設備の処理」（同）という問題はあるものの、これは設計事務所との十分な連携を取ることによってクリアできる部分だという。

たという。特殊部材を使わず、プレカットの発注のみで組み上げた。一方で「地場工務店で困るのことはエレベーター設備とスプリンクラー設備の処理」（同）という問題はあるものの、これは設計事務所との十分な連携を取ることによってクリアできる部分だという。